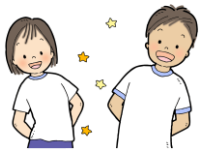

相ノ木っ子だより

平成３０年度
学校だより
１　月　号
上市町立相ノ木小学校

みんなちがって、みんないい！　でも…

「３学期、なわとび検定とけん玉大会がんばりたいです。回数や技を増やしたいです」
「中学校に向けて３学期は算数の復習をがんばりたいです。中学校では、運動の部活動に励みたいです」

いよいよ平成最後の年となる平成３１年、２０１９年が始まりました。始業式のがんばり発表で、子供たちは新たな自分の目標を元気よく発表しました。式での子供たちの様子からも、元号の節目となる新年に向けた、清々しい気持ちが伺えました。きっとどの子も新年にかける思いや目標をもっており、それぞれ違ったものでしょう。ぜひ、努力を積み重ね、目当てを達成していってほしいものです。

わたしが両手をひろげても　お空をちっともとべないが、
*　　とべる小鳥はわたしのように、　地面をはやくは走れない。*
わたしがからだをゆすっても、　きれいな音はでないけど、
*　　あの鳴るすずはわたしのように、　たくさんのうたは知らないよ。*
すずと、小鳥と、それからわたし、　みんなちがって、みんないい。

これは、金子みすずさんの有名な詩「わたしと小鳥とすずと」です。子供たちそれぞれのよさや個性は違います。この詩にあるように、それらは比較すべきものでなく、全て認め、励ますべきものだと思います。みんなが同じことを目指すのではなく、自分のよさや個性を見つけて伸ばしていく、自分の苦手や不得意なことを自覚して改善していく、そんな努力や学びが子供たちの成長には欠かせないのではないでしょうか。

ただ、ここで考えてみたいのは、個性とは何かということです。現代ほど個性的であることが求められている時代はありません。衣食住全てにわたって個性的で創造的なものが高い評価を得ています。

奈良薬師寺の管長だった高田好胤さんは次のように言っています。

個性は訓練によって磨きだされるものにして、
*　訓練なきところに個性はない。*
*　　訓練なくして個性と思えるもの、*
*　　それは野性に他ならない。*

とても厳しい言葉です。自分を磨き上げることでしか個性は育たないと言っています。訓練や経験を積み重ねることなく主張する個性は、単なる粗野な言動にすぎないと述べているのです。つまり、個性とは人の外側にあるものではなくて中身であり、その人の学びの中から経験として身に付いたもの、時を経て訓練されたものだと言えるでしょう。だからこそ、その個性はきらりと光るのです。そうすると、よさや個性は初めからあるものではなく、学び、経験、訓練を通してこそ生まれるものだということになります。少々哲学的になってしまいましたが、自ら伸びよう、高めようと努力する行為にこそよさや個性が表れるのではないでしょうか。

人の見方や感じ方、考え方、持ち味はそれぞれ違います。そして、自分が追い求めようとする目標やアプローチの仕方も違ってきます。「みんなちがって、みんないい」です。でも、その基盤となる「学習する」「経験する」「努力する」という点ではみな同じであるべきで、それらなくしてよさや個性の違いを語ることはできません。個性豊かな時代、多様な価値観の時代だからこそ、主体的に学ぶ意欲や課題を解決する追究力、こつこつ積み重ねる根気強さというものは、「個性」という名の下に逃げずに、みな同じように身に付けなければなりません。だから子供たちには、差はあってもみな同じように学び、努力することに尽力してほしいのです。「みんなちがって、みんないい。でも、みんなおなじで」と言いたいです。

最後に、作家の山本有三さんの一言です。

人間はな、人生という砥石で、ごしごしこすられなくちゃ、光るようにはならないんだ。

命を感じて～今始まる新しい今～

先月中旬に５年生の「いのちの教室」があり、富山県総合衛生学院助産学科の７名の学生さんから赤ちゃんの誕生について学びました。赤ちゃん誕生の劇、妊娠５か月の赤ちゃんの心臓の音等、学生さん方の一生懸命で工夫された「いのちの教室」を通して、子供たちは新たな生命が誕生することの奇跡、貴重な命について考えることができました。初めて知ることばかりで、子供たちは真剣な面持ちで取り組んでいました。特に、グループごとに１０か月の赤ちゃんのモデルを抱っこした際、子供たちはうれしそうに、やさしく頭をなでたり、話しかけたりしていました。慣れない手つきながらも大事そうに抱えている様子がとても微笑ましかったです。

子供たちよ　これは譲り葉の木です。
この譲り葉は　新しい葉ができると　入り代わってふるい葉が落ちてしまうのです。
こんなに厚い葉　こんなに大きい葉でも　新しい葉ができると無造作に落ちる。
新しい葉にいのちを譲ってー。

これは、河井酔茗という詩人の「ゆづり葉」という詩です。今回の学習で、たった一つしかない命の尊さはもちろんですが、命のつながりといったことにも子供たちは目を向けることができたように思います。生命誕生の神秘や不思議さとともに、新たな命の愛おしさを体感できたことで、自分たちも家族からたっぷりの愛情が注がれて育ってきたことを実感することができたのではないでしょうか。そして、やがて自分たちも・・・。そんな生命の連続性をしっかりと捉え、自分という存在の意義を噛みしめてほしいと思います。

そして次の詩は、川崎洋さんの「いま始まる新しいいま」です。

心臓から送り出された新鮮な血液は　十数秒で全身をめぐる
わたしはさっきのわたしではない　そしてあなたも　わたしたちはいつも新しい
きのう知らなかったことを　きょう知る喜び
きのうは気がつかなかったけど　きょう見えてくるものがある　日々新しくなる世界
いま初めて歌われる歌がある　いつも　いつも　新しいいのちを生きよう
いま始まる新しいいま

子供たちには、自分の命や存在を大切にするとともに、自分が今生きていること、その生命力や躍動感を喜び、感謝し、胸を張って生きていってほしいです。そして、自己有用感を十分に味わいながら、常に前向きに歩んでいく、そんな新鮮で、生命力あふれる相ノ木っ子たちの今始まる今をしっかりと見守っていきたいと考えます。みんなにとって素敵な１年になりますように。

行事予定(1月中旬～2月中旬)

１月	１６日（水）	来入児体験入学（１・５年）
	２１日（月）	特別支援学級合同学習会
	２４日（木）	３年校外学習（民俗民芸村）
	２５日（金）	なわとび検定
	２８日（月）	スキー教室（３～６年）
２月	３日（日）	相ノ木校区バドミントン大会
	８日（金）	学習参観・学級懇談会
	１１日（月）	建国記念の日
	１５日（金）	けん玉大会